

# 京まち工房

(財) 京都市景観・まちづくりセンター ニュースレター

パートナーシップで進めるまちづくり

SUMMER  
情報交流誌  
no. 43

特集

## まちの歴史を伝えていく ~五条七条・まちかどアルバム&京まちづくり史カルタ~

育ったまち、生活しているまちの歴史を知ることで、まちに愛着をもつたり、昔の思い出がよみがえったり、そこから新たな交流も…



完成したパネルに見入る地域の方々 ~五条七条・まちかどアルバム~

京町家まちづくりファンドの取組

町家の保全・再生の取組

ほんとの京都を感じる小さな旅へ

~少しずつ、ずっと~京都島原薬園町の町家

まちづくり拝見

私と京都

有隣学区のいま・むかし

品格のある京都を目指して

参加者からの声

ものしりてらじいやの解説

景観・まちづくり大学を受講して

ナショナル・トラスト

一度、NYに帰って研究報告をすることになったの。  
良い機会だから、家族にもマチ右衛門さんのこと言ってくれるね。



## 特集 まちの歴史を伝えていく ~五条七条・まちかどアルバム&京まちづくり史カルタ~

まちにはいろんな歴史がつまっています。皆さんのまちでは、その昔、どのような生活風景が見られ、京都のまちはどのように成り立ってきたのでしょうか。センターで行われたまちの歴史を伝える二つの取組。歴史を伝えるとともに、懐かしさや愛着心、交流も生まれたようです。

### 五条七条・まちかどアルバム



平成20年3月22日から30日にかけて、地域で体験した出来事や身近な「まちの記憶」を集め、語り合い、まちに展示する「五条七条・まちかどアルバム」を行いました。今回、地元関係者、学芸員、まちづくりコンサルタント、行政関係者、センターをメンバーとする「京都創生まちづくり企画会議」を立ち上げ、この取組を企画しました。

東山区の六原学区、貞教学区、修道学区の地域の方々から約500枚に及ぶ写真や映像をお借りし、その中の約200枚をもとに、26枚のパネルを作成、東山五条・七条(おおむね東大路通から川端通、松原通から七条通の範囲)の店先や軒先に展示しました。

3月29日には、展示したパネルを見ながら、ガイド付きのまち歩き「思い出ツアーフォーラム」を行い、写真を提供してくださった方とツアー参加を行なった。今後もこの取組を続けていきたいと思います。

### 京都創生まちづくり企画会議メンバーより

大改造が行なわれる前の五条通の写真が見つかったことが、今回の大きな成果の一つだった。子どもたちが路上や音羽川で遊び、陶器屋さんの荷車が並んでいた五条通。それは二度と戻らない風景であるとともに、未来のまちづくりを考える原点になる風景だ。

(布ランドデザイン 中村伸之)

清水寺の「音羽の滝」から流れる水が鴨川へ下っていた「音羽川」の跡を見た。より便利に、より速く、高密度に、と進んで来たまばらは、いろんなものを消して来た。でも「跡」は大切にしたいと思う。たぶん千年経ったら、五条通を自動車なんて走っていない。そして、再び音羽川の水辺では、子どもたちが遊んでいるかも知れないのだから。

(布市民空間きょうと 山田草博)

「各家庭に眠る古い写真をまちづくりの資源に」。そんな新しい試みが、この「まちかどアルバム」で実証できたのでは。地域内の人々の輪を広げる、いわば「二次元の取組」が数多く展開される中、これは生活に根ざした歴史を、写真を通じて共有する「三次元の取組」。まちの歴史を共有することは、過去・未来を見通す立体的なまちづくりにつながる

者との交流や、新たな発見などもあり、地域資源の豊かさ、深さを感じることができました。午後からは、センターにおいて、この取組の成果を検証し、今後の展望を考える「京都創生「思い出まちづくり」フォーラム」を開催しました。

この取組を通して、地域の方から「もう一度古い写真や映像を見直していく、とても懐かしい」といったお声をいただきました。私個人も祖母のお芋パンの味を思い出し、亡き祖母との思い出話を家族と共有するきっかけになりました。個人の写真が地域の資源へと発展していくこの取組が、地域のコミュニケーションを充実し、地域への愛着を生み、まちとひとのかかわりが豊かに持続する地域の活力をつくるきっかけになればと思い、市内各地での開催を目指して、

思い出ツアーフォーラム

今後もこの取組を続けていきたいと思います。

のでしょうね。そして私も年をとったのでしょうか、昔の写真を見るのは、文句なしに楽しい!

(一級建築士事務所 スーク創生事務所 大島祥子)

この地域で育った一人として感じたことがある。住民にとって、街の想い出はリアルな「今」の一部であるが、アルバムとして公開されるや、他人の眼差しの中で過去の歴史になってしまふということ。おそらく、こうした温度差が、まちづくり活動の難しさの一因であろうが、一方では現状打破のエネルギー源にもなる。これらをふまえ、次世代への「伝え」をいかに行うかが、今後の宿題である。

(宝塚造形芸術大学教授 北澤嘉浩)

私は子供のころ、鉄腕アトムや幻探偵に自分を重ね、将来は私一人で空を飛び、悪者をやっつけることを真剣に考え、幻探偵のマスクをボール紙で作り、風呂敷をマントがわりに首にぐり付け、自転車で町の中を走り廻っていました。五条七条・まちかどアルバムの写真を見ながら、そんなことを思っていました。現在私は、便利な文化の変わりに、何を代償にしたのでしょうか。

(アトリエ吠陀 小野晴久)

伝えなければならないもの、残さなければならないものがそこにはあった。町の風景の中から当時の人々の生活や価値観までもがうかがえ、季節の行事や地域の交流を楽しみながら丁寧に暮らす姿に大きなヒントをもたらした。

(集・西・楽 サカタニ 酒谷宗男)

三条から七条まで、間屋町、正面などの通りや耳塚を中心とした地域の歴史、まちかどアルバムをたどりながら歩くコースを案内しました。しかし実際は、案内している私が、参加された方々や暮らす人々の会話にすっかり惹かれていきました。あそこはこうや!ああや!こうやったんや。私にとって興味

三条ラジオカフェによるラジオ中継が来る際、「えっ、そんなん恥ずかしいわあ。…私、化粧しに帰ってくるわ」といった愛嬌のあるコメントも。まちかどアルバムの取組の過程には、楽しい会話を生み出す要素がいくつもあることを感じました。

(京都市景観・まちづくりセンター 高木勝英)

### 京まちづくり史カルタ

京都のまちは、進取の気風にあふれた町衆の活動によって発展してきました。問題にぶつかったとき、将来像が見えない状況にあるとき、先人たちは、いかにのりこえてきたのでしょうか。そのような京都のまちづくりの歴史を、「分かりやすくみんなに知ってもらおう!」と、カルタで表現する企画がもちあがりました。「古代から近代までの歴史の流れが分かる」、「分かりやすい」、「大人も子どもも楽しめる」、「京のまちづくり史のエッセンスが詰まっている」、「ヴィジュアルにも満足できる」ことを前提に、カルタの句の背景にある出来事についての解説文もつけて、遊びながら学べるカルタになります。句と解説文は、センターの展示施設「京のまちかど」の展示案内ボランティアさんが、絵札は、京都市立芸術大学デザイン科1回生25名の学生さんが進級課題として制作してくれることになりました。そうして「あ」から「わ」までの44句と各時代別の5句、「京」の句の合計50枚のカルタ制作が始まりました。



かるたの句・解説文づくりとはいっても…

8月の末、京のまちづくり史で外せないと思う事柄について各自句を作成し持ち寄りました。合わせてなんと約150句! 読むだけでも時間がかかりましたが、皆さんとワイワイ楽しみながら鑑賞しました。しかし、ここからが大変。句の選定、精査、そして最難関は、時代順に「あ」から並べること。「歴史の流れがわかる」カルタを目指しているので、そこは譲れません。何度も集まって、言葉を言い換えたり新たに考え直したりと、苦労を重ね何とか完成了。解説文については、文献調べるなどしてまとめ、専門家に歴史的な検証をしていただくことで、京のまちづくりのエッセンスが詰まった内容深いものになりました。



句の選考で苦悩するメンバー

あ  
新しき京を  
道路も家も  
計画化  
わ  
忘れない  
三大事業と  
博覧会

### 思い出探偵



~提供していただいた写真より、リンカーン像の謎にせまる~

遠足の思い出、みんなで撮った集合写真。そこにはなぜか、リンカーンの像が。ここはいったい、日本なのでしょうか?

写真を提供くださった当のご本人も「思い出せない」という謎の写真でしたが、まちかどアルバムをきっかけに、1950年に西宮で開催された「アメリカ博覧会」のときのものと判明。

途切れてしまった思い出の糸は、「写真」という「記憶の形」を、多くの人に見てもらうことで再びつなぎ合わせることができるのですね。

### 参加者の声

- 抜け路地などを通って、不思議な空間体験ができました。
- 音羽川が清水寺の音羽の滝を水源として五条の南のまちなかを流れていた、ということを初めて知りました。どこの場所も本当に好きになりました。
- パネルが展示されているお店の方が出てこられて、写真のその後の詳しい話や秘話をたくさん聞かせてくださいり、楽しく参加することができました。
- もう一度、自分の町を見直し、じっくり見てみようと思う気持ちになりました。

### 作成した26枚のパネルの今後の展示状況のおしらせ

作成した26枚のパネルの一部が、東山区社会福祉協議会やすらぎ・ふれあい館に展示されています。施設を利用される方々がパネルを読み、思い出話に花を咲かせておられるとのこと。今後も、多くの方々に喜んでいただけるようなパネル・写真の活用方法を検討していきます。

僕も一緒に採用に行くよ。  
京都の家族に会いたい!





## 巨大な絵札完成！

学生さんは、冬休み前、絵札制作に向けて京のまちづくり史の勉強会をしました。「三大事業？」「『構』って何？」「そもそもまちづくりって・・・」そんな声も聞こえましたが、完成した作品を見てびっくり。まず、大きさ。縦1m、横70cmと巨大な絵札が50枚並ぶと圧倒されました。そして、その絵札の完成度の高さ。切り絵やステンシルの技法を用いる、段ボールで立体的に描くなど、各々がイメージを膨らませて自由に描いた京のまちづくり史がそこにはありました。資料館で調べたり、現地を見に行くなど、句の背景にある当時のまちづくりを学ぶために多くの時間を取りました。「今まで京都のことを知らなかったけれども、これを機会にもっと知りたくなった」と話してくれました。



## 展示会の開催



3月19日から31日に、「ひとまち交流館」京都1階の作品展示コーナーで「京まちづくり史カルタ」展示会を開催しました。初日は、制作に協力していただいたボランティアさんや学生さんが来場者に作品について説明し、また新聞やテレビの取材にも応じていました。来場者の方からも「カルタの発想もおもしろく、5・7・5のリズムと絵でとても楽しく拝見しました」、「どれも見入ってしまいました。若い感覚と古い紋様や技法が交差していて素敵でした」といった意見が聞かれました。大きな絵札が横一列に並んで展示方法はとてもダイナミックで見る人の目を楽しませていました。

炎で燃えている家々とその中で火事を防ごうとしている人影を描いて類焼の様子を表現しました。

(「る」絵札作者 井上こはるさん)



人々が皆で構えを築くという团结力を表しました。気づいてくれましたか？よく見ると人で「構」という文字を作っているのです。

(「こ」絵札作者 寺田綾子さん)

## 今後の展開

ボランティアさんや学生さんの協力で「京まちづくり史カルタ」は完成しました。今後は、カルタとして使用できるサイズでの商品化を検討しており、多くの方に京まちづくり史を楽しみながら学んでいただき、京都というまちの歴史の深さを知ってほしいと思います。

今回の取組を通じて、様々な表現方法や得意技をもつ方とコラボレーションし、京都のまちづくりを発信していくことで、情報は今まで以上に広がっていくことが実感できました。よいアイデアをお持ちの皆さん、センターと一緒にまちの魅力発信に関わってみませんか。



## 京町家まちづくりファンの取組



### ほんとの京都を感じる小さな旅へ 一京町家まちづくり散歩&京町家まちづくりツアー

平成20年5月1日から31日まで、京町家まちづくりファンを活用して再生した京町家をめぐるイベントを行いました。また、その期間中の5月17日(土)、18日(日)には、ガイドの話を聞きながらまちなかをめぐるツアー「京町家まちづくりツアー」を行いました。河原町五条下ルのセンターから新町上立売の「be京都」までおよそ10kmのコースを歩きました。かなり盛りだくさんの内容で、もう少しゆっくりじっくり歩きたい気持ちにもなりましたが、午前9時から午後5時まで歩き続け、一日で

京都のいろいろな面を見るることができました。大変天気がよく、コース途中に寄った京都御所の南側にある果物屋さん「八百林」さんで、皆さんで絞りたてジュースをとてもおいしくいただきました。実際店頭に並べてある果物をしぼる姿を見ることができます。

今回のようなイベントを通じて、京町家まちづくりファン事業をたくさん的人に知ってもらい、たくさんの寄付を集めて、京町家の再生を少しでも支えていきたいと思います。



### 鍾馗さんグッズ「陶板鍾馗」の開発

京町家まちづくりツアーにご参加いただいた方々には、陶・点晴かわさき特製の「陶板鍾馗」をおみやげとして差し上げました。この「陶板鍾馗」は、河崎さんが丹精こめて作り上げた逸品です。できあがった100個を河崎さんと共に包装作業を行いました。



陶板鍾馗完成！



みんなで心を込めて包みました



ご協力いただいた河崎さんご夫婦

### 平成20年度改修助成モデル事業 第1期の応募状況

平成20年4月1日から5月15日まで京町家まちづくりファン改修助成モデル事業の募集を行いました。応募件数は18件で、上京区6件、中京区5件、下京区4件、東山区2件、右京区1件のご応募がありました。活用用途としては、専用住宅12件、併用住宅2件、事業用3件、テナント1件でした。前年度と比べて、専用住宅が多く見られました。今後、京町家まちづくりファン委員会にて審議を行い、助成物件の選定を行います。



## まちづくり拝見・有隣学区の いま・むかし

京都の町内や学区には、自治の取組や暮らしの思い出など、多くの歴史的な蓄積があります。この春、元有隣小学校の校舎の一室に学区や小学校の歴史資料を集めた展示室「いちょう館」をリニューアルオープンされた有隣学区のまちづくりを紹介します。

### 有隣の足跡残す「いちょう館」 有隣のすべてが分かる「いちょう館」

「いちょう館」は、昭和63年に、有隣小学校創立120周年記念事業の一つとして、有隣小学校の教室を借りて開館されました。きっかけは「少子化に伴い、小学校統合が避けられない状況の下で、有隣の足跡を残そう」との思いから、その数年前から学区民に資料の寄贈や寄託をお願いして準備を進めてきました。

平成4年に、有隣小学校は123年の歴史に幕を閉じました。現在、有隣小学校は、近隣の学区の小学校とともに洛央小学校に統合されています。

閉校後は、洛央小学校の仮校舎となり、「いちょう館」

▼ それでは、「いちょう館」をのぞいてみましょう。 ▼

### 有隣学区のはじまりと番組小学校

番組小学校建設時の歴史資料。当時の校舎の写真。卒業証書もありました。学区のみなさんの日々に眠っていた貴重なお宝が大集合です。加えて小学校や校名の変遷の年表や、解説パネルも展示されています。明治2年の町

### 校章の秘密

有隣小学校の校章の写真が展示されています。解説にはデザインの秘密が書かれています。校章の扇に似た19本の羽根は、明治5年に改称した下京第十九区高松小学校の「十九区」に由来しています。



### 「有隣」の由来

「有隣」の由来の「徳不孤必有隣」の額と解説がありました。論語第二卷第四「里仁編」の「子曰く 德孤ならず 必ず隣あり」。学区や小学校に、「有隣」という名前がついたのは、明治16年のこととか。ちなみに、この言葉が選択されたのは、「十九区」が「とく」と読めるからだそうです。昔の人はシャレも高尚です。



## 鏡石学舎

学区住民の方から土地の提供を受け、昭和18年に、衣笠の鏡石にできた有隣鏡石学舎。当時の木造の学舎の写真が飾られています。「夏にザリガニが良く捕れた」と当時の思い出を語る人も。子どもたちが自然観察や体験活動を行

う場所として作られました。解説によると、昭和26年には、学舎を管理運営する有隣教育財団が作られ、有隣小学校内に事務局が置かれたとのこと。現在、事務局は統合先の洛央小学校に置かれ、広く教育団体に利用されています。

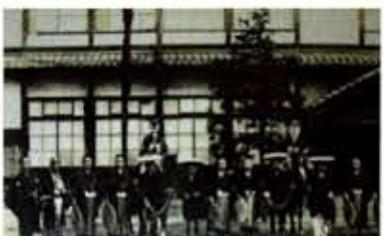
### 学区の取組

**有隣自治連合会の解説** 昭和54年に、町内会連合会が、発展的解消をしてできあがりました。現在では、マンション町内会も加えて30町内、28の各種団体で構成されています。

**時代祭の写真や解説** 昔の時代祭の白黒写真を見ながら、「先代とそっくり」と懐かしむ人も。

**有隣まつりの風景や年表** いちょうの葉っぱのロゴが入った、学区のハッピーやTシャツも展示されています。

**地域の広報誌「あいらぶゆうりん」の展示** 平成4年から始まり、62号まで出ています。

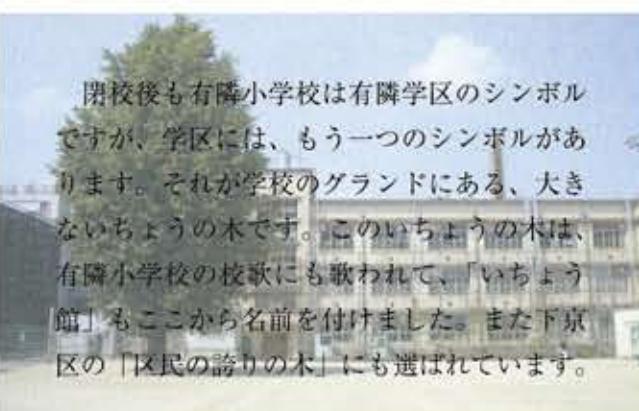


### 展示を見て、思い出話も・・・

戦時中の子どもたちは、縁故疎開や集団疎開で有隣学区を離れることもありました。「疎開する時に、五条通を見てみると、家がロープで引き倒される最中でね」、「疎開先では、畑で少し失敬を。お腹が空いてね」とちょっぴり甘酸っぱい思い出も。

町内会は、戦時中は戦争協力組織になり、戦後は占領軍によって禁止されていましたが、「町内の盆踊りは楽しくて、戦中戦後もずっとありました」と変わらない町内の姿があったようです。

### もう一つの学区のシンボル



閉校後も有隣小学校は有隣学区のシンボルですが、学区には、もう一つのシンボルがあります。それが学校のグラウンドにある、大きないちょうの木です。このいちょうの木は、有隣小学校の校歌にも歌われて、「いちょう館」もここから名前を付けました。また下京区の「国民の誇りの木」にも選ばれています。

### 新たな動き

学区では新たな動きも始まっています。平成14年には、まちづくり委員会ができ、マンション住民との交流の取組を行っています。平成18年には、まちづくり委員会の中にまちづくり構想・学校跡地ヴィジョン委員

会ができて、これから有隣学区の将来ヴィジョン案が検討されています。平成20年には、有隣ごみ減量推進会議や、有隣安心・安全推進委員会もできて、その取組が始まっています。

### おわりに

住民が支え続けてきた学区と小学校。皆さんのまちでも、貴重な歴史資料が埋まっているかもしれません。是非展示などをみてみてはいかがでしょうか。



## 景観・まちづくり大学を受講して (参加者からの声)

センターで行っているセミナーには、京都のまちの歴史を学びたい方、まちづくり活動に関する情報を知りたい方、京町家の保全・再生の取組に関心のある方など、毎回様々な方にご参加いただいています。今回は、3月に行われたセミナーの参加者からの感想をご紹介します。

### 京町家再生セミナー (3月9日)

#### 「建築言葉のいろはと日常手入れのポイント」

講師:木村忠紀氏(木村工務店)、堀栄二氏(堀工務店)



町家に暮らし始めて丸2年になり、愛しい我が家にどう手をかけたらよいかと情報を集めた中での京町家再生セミナーでした。今日は実際の町家が会場とのことで、期待も大きく、自転車をこぐ足取りも軽く出かけました。

2棟並んだ町家の右側の建物へ入り、町家独特の急な階段を上がり、脇の上の座布団に座って、ほっこりしたところで、セミナーの始まりです。講師の方々は大工の棟梁とあって、ご自身の経験からくるお話は大変興味深く、すぐに引き込まれました。

木村棟梁の「建築言葉のいろは」では、町家を構成している素材は少ない(木と土と石と紙)のに、こんなにもたくさんの言葉があるんだ…町家には歴史と文化が詰まっていると実感しました。堀棟梁の「日常手入れのポイント」では、「住」に対する日常の心配り、そして五感を使った生活の大切さを学び、「日々の生活の中で何を大切にするか」という生活スタイルを問われて

いるのだと自身の生活を振り返りました。

講義の後、2棟の町家を見学しながら、日ごろ見ることができない屋根裏を見たり、地震に負けない耐力格子の解説を受けたり、さらに、快適環境をつくる床暖房を体感したりし、複数の京町家居住者と施工者とが、意見と知恵を出し合った町家の改修事例を、頭と体で理解することができました。

最後の質問タイムでは、司会者が制限しなくてはならないくらいの質問があり、さらに、木材の話から電柱の作り方、電柱の役割にまで話が広がって、会場が盛り上りました。あっという間に時の過ぎる、期待を裏切らない充実したセミナーでした。

(参加者: H. Mさん)

~他の参加者からの声~



### 京のまちづくり史セミナー (3月22日)

#### 「京まちづくり史からまちのデザインへ」

講師:山崎正史氏(立命館大学教授)

千年の都である京都の風致景観をテーマにしたセミナーに、年に数回程度、参加しています。毎回、面白くわかりやすく、ためになります。いつも20~30人ぐらいの人数ですが、もっと大勢の人聞いてもらいたい内容だと感じています。

今回は、京都市が打ち出した「新たな景観政策」がどのような意義があるのか、今後の都市デザインのあり方等について、専門的な立場からかみ砕いて分かりやすくお話をいただきました。眺めて楽しいこと、環境の全体像を美的に鑑賞することが景観=風景であるという切り口は、シャープで京都ならではのものだと感じました。風景を眺めて「作物があまり育っていない」などの生産、経済、功利性ではなく、そこから解き放されて精神の自由を獲得して、文化

的なゆとりをもって、美しさを鑑賞する…そしてまた新たな美的な工夫が始まっています。その良い例が、京町家のデザインだ、似てるけど違う、例えば格子は画一的でなく、みな少し違う。また、平安京の時代から庭園を持った寝殿造りという都市住宅があり、大規模な自然空間を建物の中に再現していた。この貴族の住宅を武士が真似、後世のお屋敷が真似、町家では坪庭になり…、眺めて楽しむ京都人の美的な感性が、創意工夫を凝らして時代とともにレベルアップし洗練してきた。これが京都の文化です。こうした歴史の流れを踏まえて、次の未来に向けて考えていくことが大事であるとのお話をしました。その他いっぱい大切な観点のお話がありました。皆さんもぜひご参加ください。

(参加者:福島信夫さん)

### まちづくり情報発信セミナー (3月20日)

#### 「京都から『三方良し』のまちづくりを発信」

講師:塚本喜左衛門氏(塚喜商事株式会社 代表取締役社長)



3月20日のまちづくり情報発信セミナーは、旧重森三玲旧宅において、「京都から『三方良し』のまちづくりを発信」というテーマで、塚喜商事株式会社代表

取締役の塚本喜左衛門さんにご講演いただきました。

創業140年の同社は、近江商人の里、五個荘(現東近江市)の出身。経営に近江商人の精神を受け継ぎ、活かしておられるのとともに、全国各地でそれについての講演活動や、本宅のある五個荘のまちなみ保存活動、本社のある京都において三条通のSACRAビルの運営や、今回の会場である旧重森三玲旧宅の保全活動をされています。

お話は、近江商人の精神とまちづくりに関する内容を中心とした大変興味深いものでした。その一つが同社の家訓等に関するお話。「積善の家に必ず余慶あり」や、「三分法」は、今風に言えば、「CSR」や「ゴーイングコンサーン」に当たるといえ、歴史の中で身につけた商いの知恵は、全く古さを感じさせないばかりか、複雑で変化の早い現代にあってこそ、価値を持ち、輝きを増しているように思いました。



### マチ右衛門のつぶやき

私もセンター管理課に来て2年が経ちました。思えば、私がここに居るのも何かの縁を感じます。前職は金融機関。8年間の勤務を経てセンターへ。もうお金のことに苦しまなくてよいと思っていたら、「京町家まちづくりファンド」の寄付拡大という難題。

やはりお金とは何かしら離れられないと思うと同時に、寄付拡大については、これまでの経験から何かよい方法はないかと考えるもの、なかなか妙案は浮かびません。

そんなとき、前職の営業時代の先輩の言葉を思い出します。「五感営業」。「五官」(目・耳・鼻・舌・皮膚という体の器官)すべてを使って、見る・聞く・かぐ・味わう・触れる(五感)という感覚を自らが感じて取り組まなければならない。

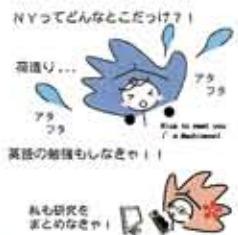
最初、「三方良し」とSACRAビル等の不動産事業や旧重森三玲旧宅の保全活動との関係は見えにくかったのですが、塚本氏のお話をうかがう中で、今回のテーマである「『三方良し』のまちづくり」の謎が解けました。現在同社が手がけている京都市内、そして五個荘における建築物や景観の再生と活用は、近江商人が活躍した時代から伝わる思想や精神に則って行われているのです。すなわち「三分法」の教えに従って不動産を所有し、「世間良し」の精神に基づいて地域との共生を図り、景観保全を手がけることで、企業活動の中でもまちづくりにも貢献しているのだといえます。

(参加者:滋野浩毅さん)

参加者の方からは、このようなご意見をいただきました。充実した内容であった、とても盛り上がった、などのうれしいご意見をいただき担当者としてはうれしく思います。しかし、もっと講師や受講者と交流したい、こんな内容のセミナーをしてほしい、といったご意見もいただいております。皆さんからのご意見を参考にし、今年度もより一層魅力的なセミナーを開催していきます。HPやパンフレットをご覧ください。

### セミナーの レポーター 募集!

センターが開催しているセミナーのレポーターになっていたいただける方を募集しています。詳しくは、センターまでお問い合わせください。



## 京町家の保全・再生の事例

島原で築80余年の京町家を活用したギャラリーを運営されている、編集・ライターの野澤好子さんご自身に紹介していただきます。

### ～少しずつ、ずっと～

#### 「京都島原薬園町の町家」(下京区)

「修学旅行で来た京都に自分が住むとはなあ」というのが、現在の正直な気持ち。五十歳の坂(どんな坂だ?)を越えての引っ越しをたいていの友人は危ぶんだが、「町家に越す」というと一転し、面白がり始めた。「どんな家なの」「どう改修するんだ」と、遠くから何度も見に来た友達もいるし、ギャラリーを始めた今、「町家を見たい」とやってくる人がいかに多いか。それは予想を超えるものだった。そして誰もがまず感激するのは高さ9mほどの棟を支える大黒柱と走りニワに展開される大空間だ。



決め手となった通りニワ

部の塗り替え、そしてピクチャーレールやライトテーブルを設置したくらい。前に住まわれていた方が、水周りなどの手を入れていたので1階はほぼそのまま使っている。

引っ越しの一番の根拠は認知症が始まった母との同居にあった。面倒を見ながらの生活は時間的な制約が大きい。ならば移動時間を減らすために市内へ引っ越し、事務所兼住まい、つまり職住一体を目指そうじゃないかと考えたのだ。「ならば町家だ」と非常に単純に考えるところは私の美点!だ。まあ、当初の希望した場所からは恐ろしく西ではあったが、この町家は職住一体の条件を備えていた。まず、トイレが2階もあり、母が何とか暮らすこと。さらに、荒れ放題だったが、小さな納屋が奥にあり、事務所問題が解決できうこと。そこで2階の台所に多少手を入れ、トイレとの換気を天井に抜けさせた。1階の通りニワに換気

がもれたらギャラリーとしての使用は難しいと考えたからだ。納屋は想像以上に荒れていたので、床を張り替え、壁を塗り替え、さらに補強を兼ねて西側一面の壁を1、2階とも壁一面の本棚にしてもらった。耐震など、いまだ課題は多いが、資金的にも少しずつ、ずっと手を加える戦法以外にないのである。



最後の工事は納屋の三和土

実は私がこの町家がいいと思ったのもこの空間だった。後からつけたと思われる扉はあったものの、通りニワは一切改修されずに物置化していた。奥行約8間の通りニワを見たとき、「この陰影を生かしたギャラリーをしたい」と思ったのだ。実際に通りニワに加えた手は、視界を阻害する棚の撤去、壁の下

のある、いい空間だ。階段を上ったり下りたりは確かに不便だが、まあ、それも運動だと思えばなんてことはない。というより、猫の額ほどだが庭仕事ができるし、何より、この家が今まで出会うことのなかった「人」を呼んでくれるのが楽しい。ご近所で町家を現在、改修をされている方もその一人だ。町家が生んだ偶然の縁だが、彼女とよく話すのは「町家という点が線で結ばれることで、町の賑わいの一員になれたらいいね」ということだ。



ピアノと写真のコラボ。町家はいい音空間

ろからスタートした。「よそ者」だから見える町家のよさ、町のよさ、京都のよさもきっとあるはずで、だから「少しずつ、ずっと」をテーマに町家暮らしを楽しんでいけたらと、今は、思っている。京都島原という、デイープで長閑な下町暮らしも、どうやら私の性質にあってるみたいだ。

#### ■プロフィール

##### 野澤 好子(のざわ・よしこ)

長野県出身。フリーの編集・ライター。

一般誌では「ラバン」、「自然浴生活」、別冊太陽「京の町家に暮らす」、「古民家生活術」、「古民家再生術2、3」、京の庭師と歩く「京の名庭」、「京・近江・大和の名庭」、「手が作り出す暮らしの道具」、「比叡山」を企画・編集。  
家族は大学時代からの友人であり夫の山田君、娘、母、そして犬の海。

## 私と京都



### 「品格のある京都を目指して」

キンシ正宗株式会社代表取締役社長

**堀野 欣哉**

私は、酒造業の四男として中京で生まれ、伏見で育ち、大学を卒業してから約30年石油化学工業の仕事をして参りましたが、昭和60年に家業を引き継ぐことになり今に至っています。その間、勤務が東京・大阪であったため、しばらく京都を離れておりました。それがよかったか悪かったかわかりませんが、京都のよいところ、悪いところを客観的に見られたのかなあ、と思っています。

また、人生には色々なことがあります。平成10年に、当時の稻盛商工

会議所会頭から、京都の観光を見直すべく観光サービス向上連絡会議が発足するときに幹事長を命じられまして、3年間自分自身にとって振り返りますと大変勉強をさせていただきました。

当時の設立趣意書を振り返ると、京都はわが国文化の原点であり、日本を代表する国際文化観光都市として発展してきました。近年、海外旅行の普及や観光地との競合など京都の取り巻く観光業は大きく変わりつつあります。21世紀における活力溢れる京都づくりのためには、古くて新しい観光産業の振興を通じ、観光産業が京都の基幹産業として重要な地位を占め、京都産業を支えて行うことが大切であります。そのためには、京都の事業者が慢心せず、入洛される人々を「おもてなし」の心をもってあたたかくお迎えすることが大切です。

しかし、入洛観光客はもとより、地元市民からも「値段が高い」「愛想が悪い」「タクシーの応対が悪い」など、極めて具体的な厳しい叱責が後を絶ちません。日本を代表する文化都市京都にあって、お客様をもてなす京都

人の感性により、京都を訪問する観光客に感動を与え続けなければなりません。ちょっとした不親切や気配りのなさが、京都全体の印象に致命的なダメージを与え、国際文化都市の評価を大きく下げる要因となります。

このような危機意識をもって、京都市民憲章の「京都市民は、旅行者をあたたかくむかえましょう」を今一度思いを馳せ、原点に立ち返り、我々観光関連事業者自ら規範を示し、眞の京都のおもてなしの心を高めるため、この機関を創設し提唱されました。

それから10年、当時の約4,000万人より、今や5,000万人近い観光客をお迎えし、一定の効果があったと思っております。今も、この原点を忘れてはおりませんが、観光客の数字だけの時代ではありません。もっと質の高い品位ある都市づくりが必要です。例えば、数年前から私自身お世話をなっている京町家まちづくりファンド委員会では、今は遅いくらいですが、京町家は京都の景観の原点でもあり、大谷委員長のもと「より積極的に努力したい」と思っております。皆さまのより一層のご支援をお願いします。

### ものしりてらじいやの解説

#### ナショナル・トラスト

「ナショナル・トラスト」とは、自然環境や貴重な歴史的建造物を、市民や企業からお金を募って土地を買い取ったり、寄付を受けたり、契約を結んだりすることによって、市民自らがその土地の所有者になり永久に守っていく市民運動。産業革命とともに急速に自然が失われつつあった19世紀の英国で始められたのじゃ。英國ナショナル・トラストは、100年の間に公益的な活動として広く国民に知られるようになり、一般市民のほか、貴族、首相、市長など様々な人の賛同を得て、草原、森林、湿地などの自然だけでなく、庭園、城などの歴史的建造物を次々と買い取っていった。創設者の一人、オクタビア・ヒルは、社会改革者として住宅改良運動にも尽力し、埼玉県上尾市の共同建替集合住宅には、彼女の名前が付けられているのう。ちなみに、バラに同名の品種があるが、何か関わりがあるのだろうか…知ってる人は教えてちょ。

一方、日本でナショナル・トラスト活動が始まったのは、高度経成長期真っただ中の鎌倉。1964年、宅地開発の対象となった鶴岡八幡宮の裏山である「御谷(おやつ)の森」

を守りたい鎌倉の市民が立ち上がった。募金活動を始め、2年後には、市民からの寄付金900万円と、鎌倉市からの600万円を合わせた1,500万円で15haの土地を買い取り、御谷の森を守ることに成功したのじゃ。そして、1960年代には、公害問題を契機に市民の環境に対する関心も高まり、身近な自然や地域固有の文化の破壊を防ごうと、全国にナショナル・トラストが広がっていった。京都市内では、左京区の「駒井家住宅」が平成14年に所有者の厚意によって(財)日本ナショナルトラストに寄贈されているのう。駒井家住宅は、日本のダーウィンと呼ばれた遺伝学研究の権威であった駒井卓博士の自邸として建築家ヴォーリーズの設計により昭和2年に建設された建物で、京都市指定文化財じゃ。現在、同財団が、煙突や外壁、台所など邸内250坪の保存修理を実現するため、募金活動を行っておる。また、「みんなで楽しみながら守る文化財」を目指して、会員によるボランティアで掃除や庭の手入れを行うとともに、ガイド付きの一般公開(毎週金曜・土曜)や、暮らしと文化をテーマにした講座、駒井博士にちなんだ「サイエンスカフェ」などのチャリティイベントも開催されているぞ。

いざNYへ!!



## まちセンからのお知らせ

### 各種セミナー受講者募集します

- 京都のまちの成り立ちをもっと知りたいひとへ 一京のまちづくり史セミナー  
時間:14~16時 料金:500円

- 7/26(土)「通り」から見る京都のまちづくり  
講師:高橋康夫氏(京都大学大学院教授)
- 8/30(土)近世における京都の防犯・防災とコミュニティ  
講師:日向氏(京都工芸織維大学教授)
- 9/13(土)都市構造の変化とコミュニティへ変わったものと変わらないもの  
講師:中川理氏(京都工芸織維大学教授)

### ●子どもと地域の関わりかたのヒントを知りたいひとへ 一まちづくり情報発信セミナー

- 時間:14~16時 料金:500円
- 7/27(日)キャリア教育から生まれる、新しい学習方法と次世代の地域の担い手  
講師:虎田悦子氏(前エフ・ディ・サン/バイタル伏見)、山形光央氏(京都市立伏見中学校長)
- 8/10(日)地域もサポート、コミュニティ・スクール  
講師:山藤安三氏(教育委員会生涯学習部首席社会教育主事)、宗田好史氏(京都府立大学准教授)
- 10/4(土)映画が繋ぐ、京都のまちと未来  
講師:御館純生氏(大映通り商店街副理事長)、井上恭宏氏(新京極映画祭実行委員長)

### ●町家を受け継いでゆくひとへ 一京町家再生セミナー

- 時間:13時半~16時(9/28は14~16時) 料金:無料
- 7/26(土)きみんちだけのオリジナル鍾馗さんをつくろう  
講師:光本大助氏(光本瓦店(有)代表取締役)
- 8/9(土)大工の棟梁に町家のことを教えてもらおう  
講師:荒木正眞氏((株)アラキ工務店会長)
- 9/28(土)町家を受け継ぐあなたへ~町家の活用方法教えます~  
講師:吉田光一氏、苗村豊史氏(社)京都府宅地建物取引業協会)

お申し込み、ご質問はセンターまでご連絡ください。

### まちづくりや京町家に関する相談を受け付けています

センターでは、まちづくり活動の進め方や、京町家の保全・改修についてのご相談などに、アドバイスや情報の提供を行っています。お悩みの方は、まずは一度ご相談ください。

### まちセンのキャラクターたちを紹介します

ニュースレターにちょくちょく現れるキャラクターたち。いったい何者??

#### ●マチ右衛門



#### ●Kate(景都)



#### ●てらじいや



**[性別]** 男性 **[身体的特徴]** 気分でまゆ毛が動く **[出身]** 京都生まれ京都育ち(菊浜学区) **[職業]** 原子屋さんの4代目 **[近況]** 京都に住んでいるが、休みが激しく、どうしたものか悩んでいて、まちセンに相談に行つてみた。そして、まちセンで改修のイロハを勉強して改修することになり、「京町家まちづくりファンド」を利用することに!今は自慢の家として受け継ぎ、色々と活用していくこうと面倒に!また、まちセンに相談に行った時に「景都(Kate)」との運命の出会いがあり、婚約者としてお付き合い中。

**[性別]** 女性 **[身体的特徴]** 長いまつげとつぶらな瞳 **[出身]** アメリカ合衆国ニューヨーク州ニューヨーク市、現在仕事で京都に滞在中 **[職業]** 日本文化研究員 **[近況]** 京都に魅せられて、来日。文化や歴史の研究をしている。「京都の町家」の調査をしている時に、情報収集のためにまちセンを訪れた。その際に、マチ右衛門と運命の出会いを♪現在は、このままずっと京都に住み続けたいと思っている。

**[性別]** 男性 **[身体的特徴]** キラーンと光るメガネとかわいいお顔がチャームポイント **[出身]** 不明 **[職業]** 骨董屋「てらじい屋」 **[近況]** いつ生れてどこで育ったかは誰にもわからない。ただ、知識量が非常に多い。みんなの疑問に必ず答えてくれる物知りじいや、テンションが上がると「ほっほっほっ...」と笑いだす。ただ、少しデリカシーがないのがたまに嫌。

## 思菜盛 by まちセン

vol.17



## センター活動拠点のご案内

### 京都市景観・まちづくりセンター

〒600-8127 京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅渓町83番地の1(河原町五条下る東側)  
「ひと・まち交流館 京都」地下1階

TEL 075-354-8701

FAX 075-354-8704

e-mail : machi.info@hitomachi-kyoto.jp

HP : http://machi.hitomachi-kyoto.jp

#### ●開館日(相談の受付等)

9:00~21:30 (月曜日~土曜日)

9:00~17:00 (日曜日・祝日)

#### ●休館日

毎月第3火曜日(国民の祝日に当たるときは翌日)

年末年始(12月29日~1月4日)

なお、センターへのお越しの際は  
公共交通機関をご利用ください。



### 平成20年度賛助会員の募集

京都のまちづくりに貢献したい!センターの活動を応援したい!そんなあなたの熱意をお待ちしています。

#### [特典]

- ニュースレター(年4回・季刊)の送付
  - 冊子等センター発行物の割引
  - ニュースレターでの活動紹介
  - シンポジウム、セミナー等への優待
- 賛助会員の方は、景観・まちづくり大学のすべてのセミナーを無料で受講できます。(賛助会員の方はひとつのセミナーで3人まで受講可)

#### [年度会費]

個人1口: 5千円 団体1口: 5万円

### まちづくりフレンズの募集

地域のまちづくりに関する各種イベントや啓発・学習活動にボランティア・スタッフとして参加していただける方を募集・登録しています。